

「エクスプローラープログラム参加報告書」

京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科

博士一貫課程1年 鶴田 星子

①学習成果

今回の派遣では、宗教間対立頻発州の一つであるインド・マハーラーシュトラ州における宗教間融和の可能性について調査を行った。カウンターパートであるデリー大学のダスグプタ先生をはじめ、ジャワハルラール・ネルー大学のチェノイ先生、サビトリバーイ・フレー・プネー大学のクンボジカル先生などと面会し、宗教紛争の現状について調査を行った。さらに、現地で活動している人々や団体・組織の情報、入手すべき文献などを先生方から教えていただき、これらを元に調査を展開した。

なかでもとりわけ重点を置いたのが、プネー市に本部を構える社会活動団体、ムスリム・サッタヤショダーク・マンダル(MSM) (真理を探究するムスリムの会)の調査である。同団体は、異なる宗教間で結婚をした夫婦の被る問題を解決し、彼らの支援を行うことで、異なる宗教の人々が共生できる社会を築くために活動している。今回は、代表のシャムスディン・タンボリ氏の活動に同行し、同団体の活動について調査した。その結果、宗教が異なるという事実がインド社会においてどういう意味を持つのかを実感することができた。今後は、同団体の活動をより深く調査することによって、異なる宗教、特に、ヒन्दウーとムスリムが共生できる社会を実現する方策について探っていきたい。

②海外での経験

調査対象地は何度も訪問したところであったが、今回の調査を通じて、よりインド社会の深部について知ることができた。結婚はどの社会でも大きな問題になりうるテーマであるが、インドのように非常に多様性に富む社会において、異なる社会集団間での結婚が実に様々な問題を生み出し、これらが現在においても深刻な問題となっているという事実について認識を新たにした。他国についてより深く学ぶことは、翻って日本社会に関する認識を深めることである。今回の経験により、インド・日本の両社会をより相対的に見る視点を身につけることができ、世界が広がったと考えている。

③プログラム内容

今回の派遣プログラムでは、インド・マハーラーシュトラ州にて、宗教紛争を抑止するために活動している団体を調査することを目的とした。プログラムの実施概要は以下の通り。

8月1日 出国

8月2日～9月28日 週2-3日の頻度で大学・研究所の先生方や社会活動家へのインタビュー

8月20日 故ナーレンドラ・ダーボルカル氏の追悼式典へ参加

9月1日～28日 週1-2日の頻度でタンボリ氏の活動へ同行

9月3日 パンナラル・スラーナ氏の講演会へ参加(MSM主催)

9月4日 学生弁論大会へ参加(MSM共催)

9月14日 献血イベントへ参加(MSM主催)

9月20～21日 ガンディー学研究所でのユース・キャンプへ参加(タンボリ氏の招待講演へ同行)

9月29日 帰国

④進路への影響について

今回の調査により、自らが本当に重要だと思う問題を見つけることができた。これまでは自身の研究テーマについて、漠然とした問題意識しかなかったが、実際に現地で情報収集してみると日本では思いもよらなかった発見があった。今後は、異宗教間の結婚というテーマを軸に、さらに研究を進めていきたいと考えている。まずは

博士予備論文（通常の修士論文に該当）を完成させ、さらに博士論文の完成へ向け邁進していきたい。